

視察研修・研修会等報告書

平成28年度

議席番号 (15) 議員名 (大島文男)

1. 期 日

平成28年6月30日(木)～7月2日(土) 2泊3日

2. 場所

北海道 帯広市 ～ 広尾町 ～ 北広島市

3. 視察・研修ルート及び移動方法

<一日目>

矢板駅(JR) → 宇都宮駅(新幹線) → 東京駅(新幹線) → 羽田空港(JAL575便) → 帯広空港(レンタカー) → 帯広市『帯広の森はぐくむについて』 → 広尾町泊

<二日目>

広尾町(レンタカー) → 広尾町『サンタランドについて』 → 苫小牧市泊

<三日目>

苫小牧市(レンタカー) → 北広島市『輪厚スマートインターについて』 → 千歳空港(ANA064便) → 羽田空港 → 東京駅(新幹線) → 宇都宮駅(JR) → 矢板駅

4. 視察・研修事項

(1) 帯広市 『帯広の森はぐくむ』について
取り組みまでの経過・現状・課題について

(2) 広尾町 『サンタランド』について
取り組みまでの経過・現状・課題について

(3) 北広島市 『輪厚スマートインター』について
取り組みまでの経過・現状・課題について

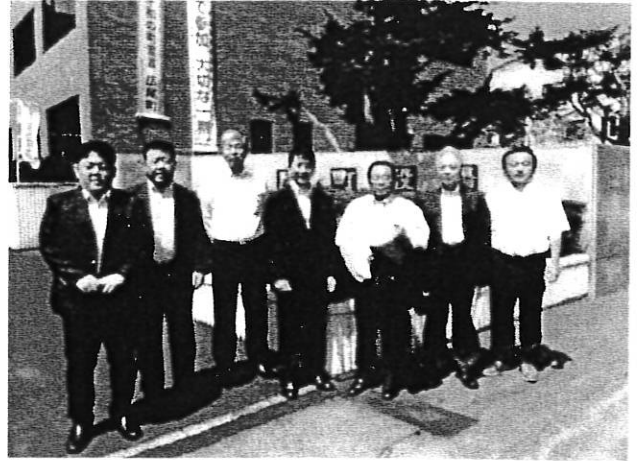
5. 視察・研修の内容と成果

矢板市

面積 170.66 km² 人口 34,158 人 人口密度 372.32 人/km²



副市長歓迎の挨拶 右は議長



役場での研修を終えて



議場で



視察研修・研修会等報告書

議席番号（15）議員名（大島 文男）

1. 年 月 日 平成28年6月30日（水）（日数2泊3日）
2. 場 所 帯広市
3. 視察、研修事項 地域振興施設「帯広の森はぐく一む」の取り組みについて
4. 面 接 者 帯広市都市建設部 みどりと花の係長 大橋 由幾
みどりと花の係 小丹枝裕美
5. 視察研修、研修会の成果

帯広の森は 406.5ha の面積があり 幅 550m長さ 11Km もあり 緑のベルトが広がっています。この森は初めからこの森があったわけではなく 5代市長の吉村博によって構想が作られ「近代的な田園都市」と位置づけ 計画が推進されました。

これは 昭和44年 吉村市長がオーストリアを訪問し 「ウイーンの森」に出会ったことが始まりであり その構想が昭和45年に具体化されてきました。その後 昭和50年6月1日 第1回市民植樹祭が開かれ 8.7haに 500人の市民の3000本の苗木が植えられました。この活動は 平成16年まで継続され 30年間に 55種類の木 242,000本を植樹されました。

「帯広の森はぐく一む」は 森の管理運営利活用の拠点として建設され 平成22年に開設されました。この施設は 年間15,000人が利用され森の大切さ 必

要性 等 森林に対する人々のつきあい方 等 自然から学び取る考え方が
感じられました。北海道の森林が多地方にあって 人工的に森を作り森と共生
し その中に自然と調和した施設 等が建設され 森を楽しみながらスポー
ツで汗を流す市民の森の様子が見られ 市民の憩いの場になっています。又
管理は指定管理制度によって運営されています。又 この30年間の経過と共
に公的な施設が必要とされ それらの施設は帯広の森の中に森林と共生する
形で建設され スポーツ 文化施設の拠点づくりに利用され市民の憩いの場
所として 利用された経過は高く評価され森と親しんだ環境づくりに大いに
貢献されたことを 強調されてきたことに意義を感じた研修内容でした。

視察研修・研修会等報告書

議席番号（15）議員名（大島 文男）

1. 年 月 日 平成28年7月1日（金）（日数2泊3日）
2. 場 所 北海道広尾町
3. 視察、研修事項 サンタランドの取り組みについて
4. 面 接 者 田中靖章副町長、堀田成郎議長
5. 視察研修、研修会の成果

広尾町は 人口 7,200 人の町で日高山脈の東に位置し 漁業 農業の町で漁業は年 50 億 農業は 69 億円の算出額があり面積 596km²あり 高齢化率は 35%に達しています。

広尾町のサンタランドの誕生は 広尾町の海洋水族科学館とノルウエーベルゲン市にある国立ベルゲン水族館が姉妹都市になり 昭和59年11月にオスロ市長の署名入り認定書が送られ 広尾町サンタランドが誕生しました。

サンタランドの活動は 昭和60年から31年間に渡りサンタメール 207万通を国内外に発送しており 毎年11月1日～12月10日まで受けつけ 配送期間は12月21日～25日になり1通500円の手数料で配達しています。

サンタランドの基本的な理念は 「愛と平和」「感謝と奉仕」を基本にサンタランドが取り持つ緑で 愛、夢、ロマン、憧れ、やさしさがあり いつまでも誇らしさや思い出のある町にしていくことだそうです。広尾町の住民の参加の

もと 平成18年10月の第4土曜日から15万球のイルミネーションの点
灯 等 恋人の聖地を作り住民参加のサンタランドの街づくりを推進して
心の通う街を形成している地域振興施設である事が 理解出来ました。

視察研修・研修会等報告書

議席番号（15）議員名（大島 文男）

1. 年 月 日 平成 28 年 7 月 2 日（土）（日数 2 泊 3 日）
2. 場 所 北広島市
3. 視察、研修事項 「輪厚スマートインターチェンジ」の取り組みまでの
経緯と現状について
4. 面 接 者 ネクスコ東日本 北海道支社 川崎様
北広島市企画財政部 都市計画課課長 諏訪博紀
5. 視察研修、研修会の成果

このスマートインターの整備は 平成 20 年に社会実験に向けて計画なされ
平成 21 年には輪厚スマート I C 地区協議会が設立され 平成 21 年 6 月 29 日
開通になりました。

このスマートインターは 大曲工業団地（120ha164 社）と北広島市輪厚工業
団地（39ha）が隣接している。

工業団地の交通の利便性 営業活動 製品の輸送 等 大いに地区に寄与し
ている。又 観光活性化 特にゴルフ場の利用客、又 宿泊施設は約 2.5 倍に
拡大し その効果が大きく見られる状況である。

スマートインターは 交通時間の短縮を含め地域経済の活性化 そして こ
のインターは 北広島市の住宅地と札幌市内の三次救急医療機関への輸送時
間は 3 分短縮された。

そのようなスマートインターの開通により 人の流れ 地域の構成 街の形成が大きく変わり その変化が地域住民の利便性をもたらし 住民の暮らしが一段と潤う社会基盤になったとの説明があり その計画性の広く認められたインフラ整備であったと強く感じ取ることが出来ました。

視察研修・研修会等報告書

平成28年度

議席番号 (15) 議員名 (大島文男)

1. 期 日

平成28年9月25日(日)～9月28日(水) 3泊4日

2. 場所

島根県 海士町 ～ 岡山県 奈義町 ～ 鳥取県 八頭町

3. 視察・研修ルート及び移動方法

<一日目>

矢板駅(JR) → 宇都宮駅(新幹線) → 東京駅(新幹線) → 羽田空港(ANA383便)
→ 米子空港(タクシー) → 境港市 視察: 境港商店街 → 境港市泊

<二日目>

境港市(フェリー) → 海士町 定住について → 海士町泊

<三日目>

海士町(フェリー) → 境港市(レンタカー) → 奈義町 子育て支援について → 鳥取市泊

<四日目>

鳥取市(レンタカー) → 八頭町 地域再生計画を活用した農地転用の許可の特例について
→ 鳥取空港(ANA1102便) → 羽田空港 → 東京駅(新幹線) → 宇都宮駅(JR) →
矢板駅

4. 視察・研修事項

(1) 島根県海士町 『定住』について

取り組みまでの経過・現状・課題について

(2) 岡山県奈義町 『子育て支援』について

取り組みまでの経過・現状・課題について

(3) 鳥取県八頭町 『地域再生計画を活用した農地転用の許可の特例』について

取り組みまでの経過・現状・課題について

5. 視察・研修の内容と成果

矢板市

面積 170.66 km² 人口 34,158 人 人口密度 372.32 人/km²



地域再生計画の事例見学 「大江の里自然牧場」平成28年4月オープン農家レストラン

視察研修・研修会等報告書

議席番号（15）議員名（大島 文男）

1. 年 月 日 平成 28 年 9 月 26 日（月）（日数 2 泊 3 日）
2. 場 所 島根県海士町
3. 視察、研修事項 「定住について」の取り組みの経緯、現状、課題
について
4. 面 接 者 海士町 地産地消課長 大江和彦
5. 視察研修、研修会の成果

海士町の定住についての研修は町の観光協会が研修の講師になり 今回の勉強は 鳥取県伯耆町常任委員会 8 名と北海道別海町教育委員会 5 名 鳥取県立大学生 4 人と大阪在住 1 人の混合での研修になりました。

島の中では 「ないものはない」この考えのもと 私たちが人口の減少を強く感じられる前から その流れを見極め「島が消える」と言い始めた。現に昭和 25 年 10 月には 2,353 人に減少していた。高校卒業後は ほとんど島外に流出し 生れる子供は年に 10 人程度 現在の高齢化率は 40.9%になっています。

又 町は平成 13 年頃 離島振興法のもと 借金は 105 億円と増加し財政はひっ迫してきた。平成 14 年 5 月の町長選で地縁、血縁を不定し 職員の考え方の意識改革を行ない 役場は「住民総合サービス株式会社」であり地域経営は企業会計と同じであるとの考え 町の改革を断行してきた。平成 15 年の 12 月には合併協議会の解散を行ない 自立の町を目指して行動をおこした。ところ

が国の方針で「三位一体改革」による「地財ショック」が町にのしかかり 地方交付税の大幅な減額 平成 20 年には「財政再建団体」への可能性が大きくなり 町としては再び島の生き残りをかけて「海士町自立促進プラン」を策定して 守りの方策から攻めの方策に転換して産業の創出を推進していった。又 職員は自ら身を削らないと改革は断行できないと 給与のカットを宣言し実行した。又 その財源で「すこやか子育て支援条例」を制定し 結婚祝金 5万 出産準備金 10万 里帰り出産交通費 5万 又 第一子 10万 第二子 20万 第三子 50万 第四子 100万 又 引っ越しの奨励金 等 支援策を拡充した。

島では 第一次産業の再生で島の活気をおこし活性化させること 又 「現場第一主義」の体制をつくり「地域再生戦略～島まるごとブランド化で地産地消」の推進を行ない 地域に再生された産業が目立つようになって来た。

真の再生には島外から多くの住民が移り住み 今では人口も一定数を維持しており 町営住宅には島外からの住民が移り住み活気を呈していました。

この島は 特に恵まれた島ではないのに 新たに移り住んだ住民と元からの住民の共生した起業が起こり産業として成り立ってきており プラスのスパイラルがおきてきており 役場職員の身を呈した背水の陣を意識した島の活気が戻って来た研修であり 多くの学びを得た一日であり参考になる考え方を得ました。

視察研修・研修会等報告書

議席番号（15）議員名（大島 文男）

1. 年 月 日 平成 28 年 9 月 27 日（火）（日数 2 泊 3 日）
2. 場 所 岡山県奈義町
3. 視察、研修事項 「子育て支援」について
4. 面 接 者 奈義町議会議員 桑村由和 岡 親佐
議会事務局長 中井正和

5. 視察研修、研修会の成果

奈義町は 昭和 30 年に三村が合併し町制がしかれ 平成 14 年には住民投票を行ない合併の是非を問い単独町制を決定し 平成 24 年 4 月には子育て応援宣言を行なった。

町の面積は 69 km²で 人口は 6,182 人の町で 自衛隊の基地があります。

奈義町も 人口減少 少子高齢化になり対策として 住宅施策・就労の場の確保・子育て支援を行ない 現在の人口の維持を図ると言うものです。その結果平成 26 年 合計特殊出生率が全国でもトップクラスの「2.81」と言う快挙を達成出来たと言うことになり NHKで全国放送されました。又 定住化のため分譲地の整備がなされ 又 企業誘致を行ない 19 区画が完売になり 子育て支援は町単独事業で高校就学支援金交付事業で学費の一部助成で 年 90,000 円を 3 年間支給 又 出産祝金として第一子 10 万 第二子 15 万 第三子 20 万 第四子 30 万 第五子以降 40 万を支給しています。

このように 人口 6,000 人の町はきめ細かな対策を講じ 地域住民と密接な人口対策施策を実施して確実に実績を作ってきた状況は 街づくりのプロセスを説明に学ぶべきところが多くありました。

視察研修・研修会等報告書

議席番号（15）議員名（大島 文男）

1. 年 月 日 平成 28 年 9 月 28 日（水）（日数 2 泊 3 日）
2. 場 所 鳥取県八頭町
3. 視察、研修事項 地域再生計画を活用した農地転用の許可の特例について
4. 面 接 者
5. 視察研修、研修会の成果

鳥取市に宿泊し八頭町まで約 40 分 早めに八頭町役場に着き 八頭町長をはじめ幹部と話し合いができ 町役場の説明を受けた。

今回の農地転用は（有）ひよこカンパニーは自社ブランドの「天美卵」を使ってスイーツの開発 販売 カフェの営業を行なっており年間 10 万人の来場者が来るようになり 平成 27 年には農産物加工施設 加工品 直売所 農家レストランの複合施設を作り 来場者も年間 23 万人を予定しており駐車場は圃場整備されており 第 1 種農地のため不可との事で鳥取県の経営支援課のアドバイスを受け 地域再生計画を策定して国の認定を受け 6 次産業化施設を整備すれば 農地転用の特例が適用され農地転用が可能になるとの事で 平成 27 年 9 月に国に地域再生計画を提出して 11 月下旬認定 平成 28 年 4 月には施設の完成とともに農地転用も適用され 駐車場も完成した。

農業振興のもとに農地法が定められているのにも関わらず 農業振興に關す

る施設を整備するのにも転用許可が得られず 何のための農地法なのかと考
えさせられた。規制のための規制であって 規制緩和が強く求められている状
況である。規制が足かせになっている状況は多々見られる状況に 今後 農業
の発展に規制の番人である市・町の担当者に課題 規制緩和について よく認
識を持ってもらいたいと強く感じた研修でありました。

視察研修・研修会等報告書

平成28年度

議席番号(15) 議員名(大島文男)

1. 期日

平成29年1月26日(木)～27日(金)

2. 場所

山梨県北杜市～長野県松本市

3. 視察・研修ルート及び移動方法

<一日目>

矢板駅(JR)→宇都宮駅(新幹線)→大宮駅(湘南新宿ライン)→新宿(特急あずさ11号)→甲府駅(レンタカー)→北杜市『企業の農業参入について』→松本市泊

<二日目>

松本市→松本市役所『健康寿命延伸都市・松本「人の健康について」』→松本駅(JR 特急ワイドビューしなの)→長野駅(新幹線はくたか)→大宮駅(新幹線やまびこ)→宇都宮駅(JR)→矢板駅

4. 視察・研修事項

(1) 山梨県北杜市 『企業の農業参入』について

取り組みまでの経過・現状・今後の課題について

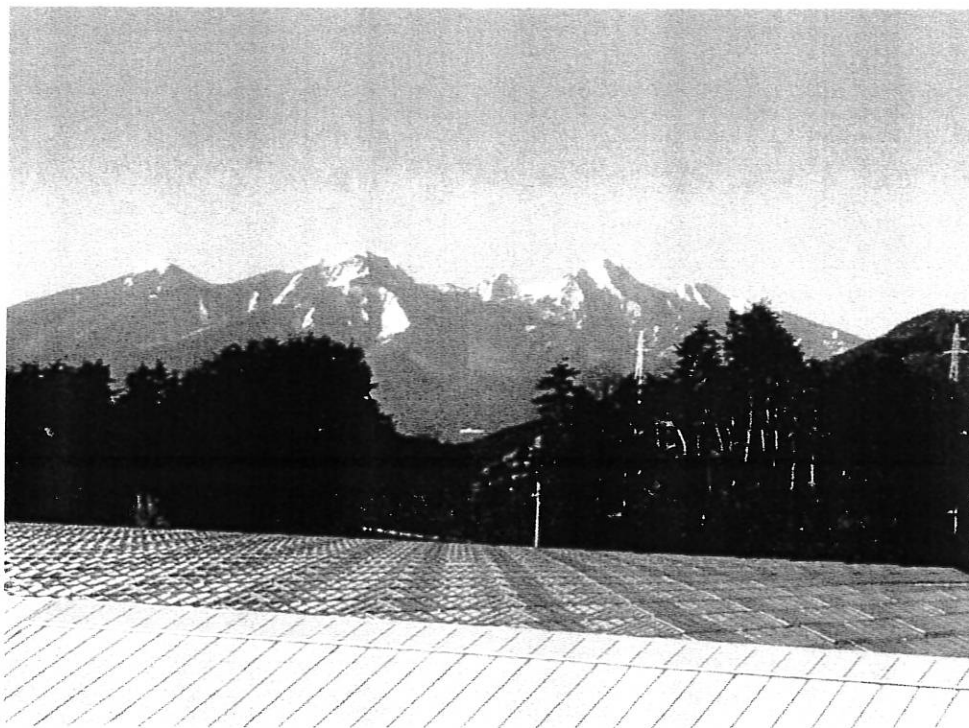
(2) 長野県松本市 『健康寿命延伸都市・松本「人の健康」』について

取り組みまでの経過・現状・今後の課題について

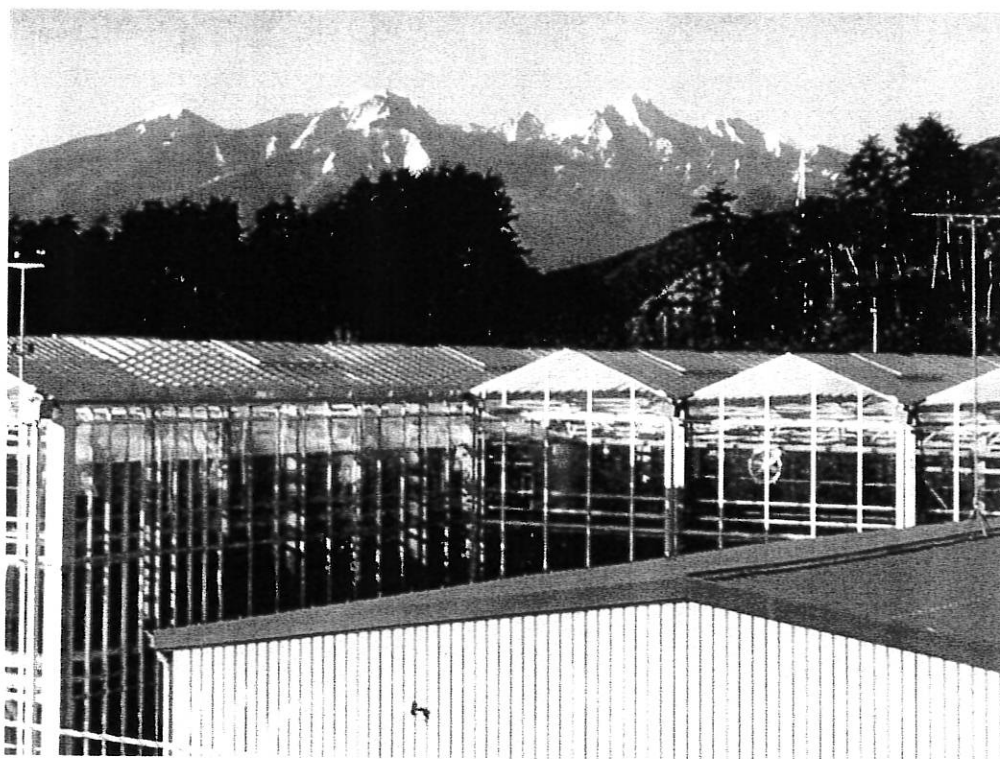
5. 視察・研修の内容と成果

矢板市

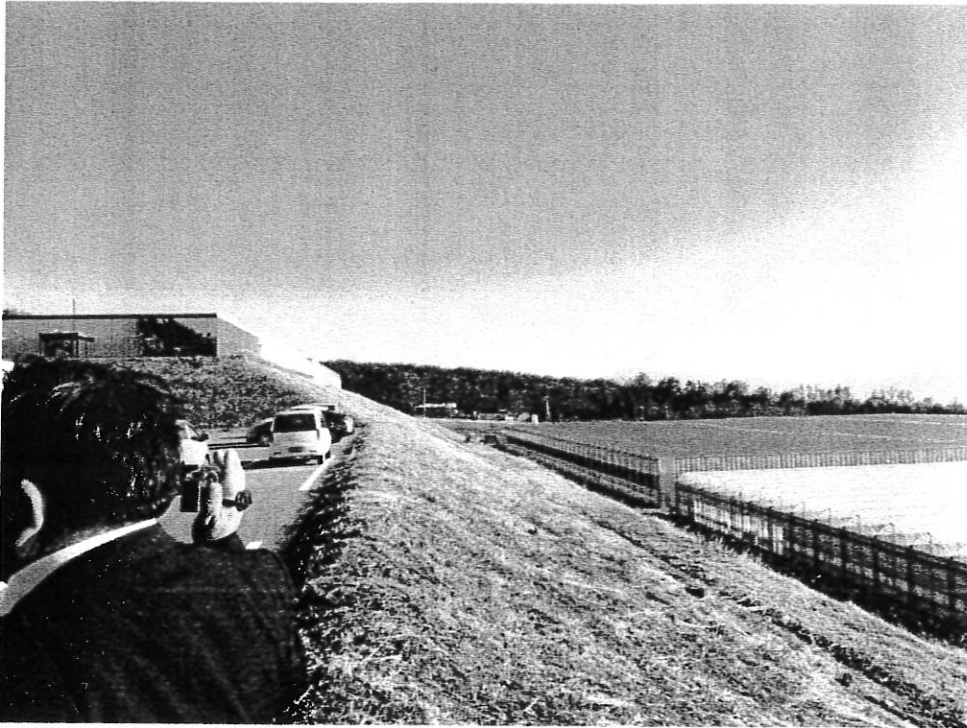
面積170.66km² 人口33,482人(平成28年12月) 人口密度196人



ハヶ岳とパプリカ栽培施設 (株ベジワン北杜 施設規模2.5ha (1))



パプリカ栽培施設 (2)



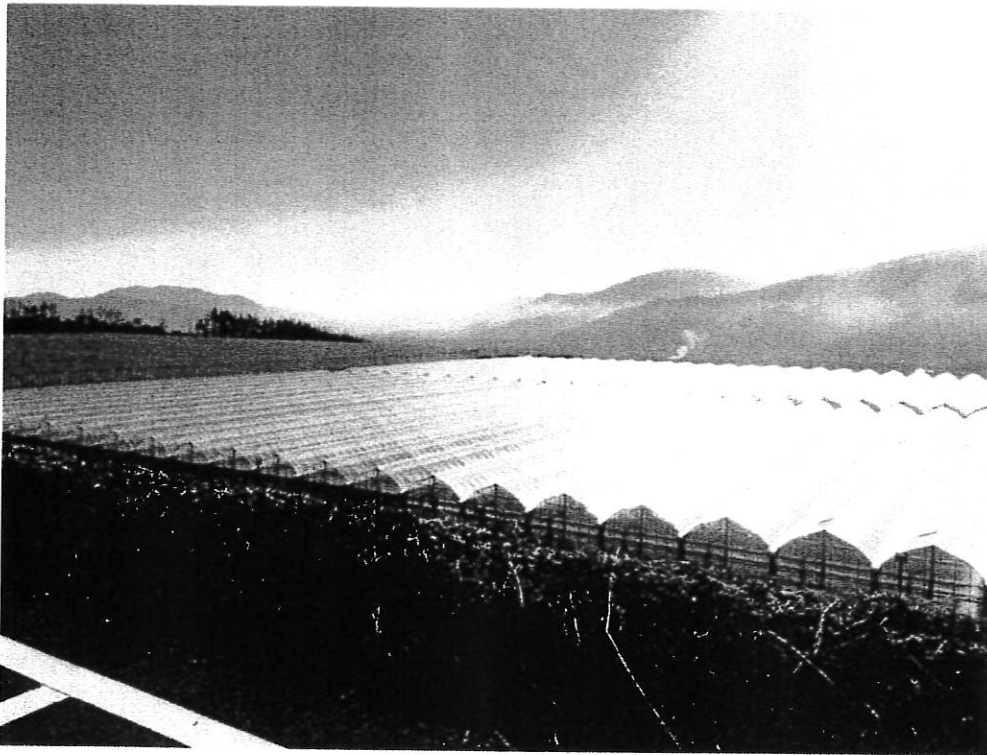
左側スプラウト栽培施設 (榎村上農園 施設規模は2.7ha)



醸造用葡萄の栽培(榎志田北杜ワイナリー 規模20.0ha)



富士山とトマト栽培施設 奥の施設が㈱アグリマンド
アジア地区初のオランダ型の最先端の技術で約2 ha
の施設規模があり溶液栽培を行っている。



トマト栽培施設 (㈱明野九州屋ファーム 2 ha を越える施設)

視察研修・研修会等報告書

議席番号（15）議員名（大島 文男）

1. 年 月 日 平成 29 年 1 月 26 日（木）（日数 1 泊 2 日）
2. 場 所 山梨県北杜市
3. 視察、研修事項 北杜市「企業の農業参入」について
4. 面 接 者 北杜市農業委員会 福田和久
5. 視察研修、研修会の成果

北杜市は平成 16 年 11 月に 4 町 3 村が合併して人口 48,000 人の市で 面積 602.89k m²であり県内で最も面積の大きい市であります。

農用地は 8,414 ha ありますが 農業者の新規就農者は少なく農業は活気がなくなり耕作放棄地も増えてきており 主だった農業の特産品は少なくなっていました。

市は 農地再整備を含めて企業の農業参入を目途に耕作放棄地の解消と農地の集団化を図り その整備された農地を企業に借地をし農業参入を図ってきました。

現在では 17 社の企業が進出して近代的なハウス 又 新しい施設を作り農業の生産に取り組んでいます。

一般的に遊地農地 荒廃農地 2~4 ha 以上の農地の連担しているケースに企業が参入して来ている

主な進出企業は イオンアグリ創造 野菜 14 ha レタス 2ha キャベツ 8 ha

等 栽培しています。

(株)村上農園は「スプラウト」を栽培する会社「豆苗」を作り 販売している 2.7 ha (有)アグリマインド(カゴメ株)は オランダの最新技術でトマト 2ha を栽培しています。他 17社が現在進出したり 農地法の規制について 何ら対策は取らず県との協議で大幅な緩和で企業の農業参入を実施しており 学ぶべき農地法 取り扱いもたくさんあり この分野の最新対応について視察の申し込みが多いとの事であり 農業分野の企業参入は今後の行政の方向性に強いインパクトを与えた状況である。

北杜市は 今後 共に大手企業と手を結び企業誘致と共に 労働者の働く場所の確保 最新の技術を持った農業生産技術 販売ルート 食の安定的な配給を含めて さらに企業の農業分野の参入が図られる計画であり 国と県との農地法を含めて規制緩和が大きく視点に入ってきているが 農業振興の方針で農業の進出を許可しており 学ぶべき所が多い研修でありました。

視察研修・研修会等報告書

議席番号（15）議員名（大島 文男）

1. 年 月 日 平成 29 年 1 月 27 日（金）（日数 1 泊 2 日）
2. 場 所 長野県松本市
3. 視察、研修事項 「健康寿命延伸都市松本」について
4. 面 接 者 松本市健康福祉部 健康づくり課 課長 古畑崇子
5. 視察研修、研修会の成果

松本市は合併後 978.47k m²の面積 標高 592m 人口 241,000人であります。

又 市役所の前には 国宝松本城があり街のシンボルでもあります。

市では 第 1 段で 3K 施策「健康づくり」「子育て支援」「危機管理」第 2 段階で「健康寿命の延伸」を 平成 25 年 3 月 14 日 宣言しました。

松本市では健康づくりの推進に行政区 35 地区を単位に地域づくりセンターを 35 地区 全地区に設置しており市の課長級の職員 主事 広場コーディネーター 保健士を設置しておりこの事業の推進を力強く行っています。

今までも 松本市食生活改善推進員 体力づくりサポーター等の人員を協力して登用して健康寿命の延伸に取り組んでいるとの報告があり 長野県の平均寿命 男性 80.88 才 女性 87.18 才 となっており 男性は平成 2 年 7 年 12 年 22 年と全国 1 位になっております。又 大学 企業 等と連携して健康相談や健康診断を通じて健康づくりの考え方を多くの市民に普及して予防介護を中心に 事業展開を行ってきた その成果によって松本市内での健

康寿命の延伸が図られてきており さらに「すこやか食プラン松本」をさらに
推進しており 今後の成果が期待されている報告を受けました。